ていんさぐぬ花

本調子

中	
工	
尺	
上	
四	
合	
四	
工	

中	
工	
尺	
上	
四	
合	
四	
工	

中	ていんさぐぬ
合	は
尺	ー
上	な
四	や
合	
四	
工	

中	ちみさちに
合	す
六	ー
合	み
七	てい
合	
六	
七	

中	うやぬゆし
合	ぐ
尺	ー
上	とう
四	や
合	
四	
工	

中	ちむにす
合	み
尺	り
上	ー
四	
合	
四	
工	

中	うやぬゆし
合	ぐ
尺	ー
上	とう
四	や
合	
四	
工	

中	ちむにす
合	み
尺	り
上	ー
四	
合	
四	
工	

てぃんさぐぬ花

本調子

一、てぃんさぐぬ花や　爪先〈ちみさち〉に染〈す〉みてぃ
親〈うや〉のゆしぐとぅや
肝〈ちむ〉に染〈す〉みり

二、天〈てぃん〉ぬ群星〈むりぶし〉や
読〈ゆ〉みば読〈ゆ〉まりしが
親〈うや〉ぬ寄師事〈ゆしぐとぅ〉
や
読〈ゆ〉みやならん

三、夜走〈ゆるは〉らす船〈ふに〉や
子〈に〉ぬ方星〈ふあぶし〉目当〈
みあ〉てぃ
我〈わ〉ん産〈な〉ちぇる親〈うや
〉や
我〈わ〉んどぅ目当〈みあ〉てぃ

四、宝玉〈たからだま〉やてぃん
磨〈みが〉かにば錆〈さび〉す
朝夕肝磨〈あさゆうちむみが〉ち
浮世渡〈うちゆわた〉ら

五、誠〈まくとぅ〉する人や
後〈あとぅ〉や何時迄〈いちまでぃ
〉ん
思事〈うむくとぅ〉ん叶〈かな〉てぃ
千代〈ちゆ〉ぬ栄〈さか〉い

六、なしば何事〈なんぐとぅ〉ん
なゆる事〈くとぅ〉やしが
なさぬ故〈ゆい〉からどぅ
ならぬ定〈さだ〉み